

# 総合的な学習の時間の学びの中で 思考力・判断力・表現力の向上を図るワークシートの工夫

藤上 真弓

A Study of how to make a worksheet:  
In the Period of Integrated Study to Develop the Ability to think, to make decisions, to express

FUJIKAMI Mayumi  
(Received August 3, 2016)

キーワード：思考力・判断力・表現力、思考ツール、活用、総合的な学習の時間

## はじめに

総合的な学習の時間は、自分なりの生き方モデルを見いだすとともに、学び合う仲間の一員、社会に生きる一員としての在り方を模索する時間だと考える。そして、模索する際に、各教科等で身に付けてきた知識・技能、見方・考え方の中から、必要なものを選んで活用しながら磨きをかけ、使いこなせるようにしていく時間だと考える。

藤上 (2012) は、「対象との向き合い方」「仲間との向き合い方」「自己との向き合い方」の3つの学び方が、総合的な学習の時間の学びに必要なだと考えている (p. 17, pp. 20-25)。総合的な学習の時間で取り扱う答えなき問いに対して「自分なりの応え」を求め続けていく子ども像を具現化していくために、特に、「自己との向き合い方」を身に付けさせていくことは重要であると考え。目の前の課題を「自分だったら？」と、自分ごととして引き受ける姿勢や態度は、子どもが自分や社会の未来を切り拓いていくためにも重要であると考えからである。しかし、自分ごととして引き受ける姿勢や態度、引き受けるために必要な学び方等は、総合的な学習の時間ならではの学び方であると言い切るのはいらない。これらの姿勢や態度を身に付けた子どもは、各教科等の学びにおいても、課題を自分に引き寄せて考えることができるようになるのではないかと考える。自分に引き寄せて考えることで、各教科等の学びにおいても、これまでの自分の経験や学んで得た見方・考え方等と照らし合わせたり、つないだりしたりしながら、実感の伴った学びが展開されていくのではないかと考える。

対象や仲間と向き合う際にも、「自分ごと」としていくためには、総合的な学習の時間で身に付ける学び方を「コミュニケーション力」「情報活用力」等と、抽象度の高い言葉でとらえたままでは、子どもたちが、目の前にある課題に応じて学び方を活用できるようにはならないと考える。学び方が、目の前の子どもの発達段階や実態等に応じた具体的なレベルに置き換えて考えられてこそ、活用できるものとして蓄積されていくのではないかと考える。そのため、総合的な学習の時間においても、一単位時間の学びの中で、子どもが活用する具体的な学び方をとらえていく必要性を感じてきた。

また、1単位時間で活用する学び方を焦点化できていたとしても、子どもが活用する必要感をもったり、活用せざるを得ない状況になったりする手立てを行わずに、教師のお膳立てだけで展開されていったとしたら、子どもたちは、学び方を活用する効果を実感することもできない。そのため、学びが子どもたちにとって意味や価値のあるものになっていくはずもない。

そこで、まず、今一度、総合的な学習の時間において、子どもは、どのような学び方を活用するのか、見つけ直すとともに、子どもに、それらを活用する効果を実感させる手立てについて考える必要性を感じた。

## 1. 研究の目的と方法

この研究では、以下のことについて明らかにさせていきたいと考えた。

- 総合的な学習の時間の課題解決に必要な学び方には、具体的にどのようなものがあるか
- 総合的な学習の時間の課題解決に必要な学び方を、子どもの発達段階や実態、単元の学びの中で向き合う対象に応じて、子どもたちに、どのように蓄積させていったらよいか

これらについて明らかにしていくことで、子どもたちは、これまで身に付けてきた学び方やそれらを活用して見だしてきた考え等を、目の前の課題に応じて使いこなすことができるようになっていくと考えた。そのためにも、一人ひとりに思考・判断・表現の場を設定し、一人ひとりの学びと育ちを保障することは必ずである。具体的には、各単元・各授業の課題解決に必要な学び方を見極め、それらの学び方の活用を促すワークシートを開発し、以下のようなことを目指した。

- 子どもが、必要感をもって学び方の活用を促すことができるようにする
- 子どもが、学び方を活用したり、蓄積したりする効果を実感できるようにする
- 子どもが、自分の学びの筋道を見つめることができるようにする

また、「子どもの内面にある思いや願い、見方・考え方の見える化」「子ども一人ひとりがもつ情報の見える化」「子どもたちが追求して得た成果の見える化」「子どもたちが抱えた問題の見える化」等、子どもたちの思考・判断の様相を見える化し、教師が、子どもの思いや願い、見方・考え方に寄り添ったり、活用している学び方を把握したりしながら、単元のねらいを達成できるようにしたいと考えた。

## 2. 総合的な学習の時間の学びに必要な「つなぐ」「見極める」学び方

以下に、筆者が総合的な学習の時間の学びに必要なだと考える学び方の例を挙げる。

### 2-1 自分につなぐ・仲間をつなぐ学び方

「自分につなぐ・仲間をつなぐ学び方」は、以下のような場や状況の際に必要なってくる。

- 学び合う仲間やかかわる対象（人）の思いや願い、見方・考え方、対象（物・出来事等）の背景にある思いや願い、見方・考え方を自分に引き寄せながらくみ取る際
- 語り合う仲間の実感・納得を得る際

自分に引き寄せて考えたり、互いの考えをつないだりする学び方

- |          |           |
|----------|-----------|
| ①たとえる    | ②言い換える    |
| ③推論する    | ④予想する     |
| ⑤関連付ける   | ⑥キーワード化する |
| ⑦問いかける   | ⑧結論付ける    |
| ⑨具体例を挙げる | ⑩ナンバリングする |
| ⑪絵や図で表す  | など        |

具体的には、図1の学び方である。特に、下線を引いた学び方は、各教科の学び方との関連を意識させていった。

図1 自分につなぐ・仲間をつなぐ学び方

### 2-2 対象を見極める学び方

「対象を見極める学び方」は、以下のような場や状況の際に必要なってくる。

- 自分の思いや願いを実現する際に乗り越えなくてはならない現実を把握する際
- 目的を達成するために必要な見方・考え方、方法、情報等を模索する際
- 収集した情報を整理・分析する際
- ゴールに向かうまでの道筋を見通す際 等

現実を把握する学び方  
課題解決のためにどの考え・情報がふさわしいか見極める学び方  
対象の本質に迫る学び方

- |                      |           |           |
|----------------------|-----------|-----------|
| ①予想する                | ②置き換える    | ③表やグラフに表す |
| ④対比する                | ⑤分類する     | ⑥類推する     |
| ⑦関連付ける               | ⑧共通点を見いだす | ⑨独自性を見いだす |
| ⑩結論付ける               | ⑪因果関係を見る  |           |
| ⑫メリットとデメリットを考える      |           |           |
| ⑬目的との整合性をみる          |           |           |
| ⑭必要性（重要性）の度合いをみる     |           |           |
| ⑮優先順位を検討する（ランキング付ける） | など        |           |

図2 対象を見極める学び方

「対象を見極める学び方」を、図2に例として挙げたが、向き合う課題によって、ここに挙げた以外の多様な学び方を活用していくはずである。

特に、情報を整理・分析する際には、各教科の学び方と関連付けることが大切である。子どもたちがその学年で身に付けていく各教科の学び方を教師が把握しておくことで、子どもたちの発達段階に応じた学び方を、総合的な学習の時間の学び方の中においても意識して活用させることができる。それとともに、子どもたちは、各教科で身に付けた学び方が、実生活においても活用できることを実感し、各教科を学ぶ意味や価値も実感していく。

### 2-3 成果や方向性を見極める学び方

課題解決の方向性を探っていくために、語り合いの場を設定することが多いが、個やグループの学びの成果や抱えた課題等が、学び合う仲間全体にとって意味や価値のあるものとして共有されている実践ばかりであるとは言い難い。そうならないためにも、子どもたちには、語り合いながら、図3にあるような学び方を意識させていくことが大切である。そうすることで、子どもたちは、誰かの意見や考えだけで議論を展開することなく、互いの意見や考えを確信し合いながら、課題解決を図ろうとしていくことができるようになっていく。

「成果や方向性を見極める学び方」の活用は、以下のような効果を生み出していくと考えた。

○協同的な学びの意味や価値を浮き彫りにさせるとともに、探究のサイクルを生み出す

学びの成果や今後の学びの方向性について見極める学び方

- ①納得できたことや問題点を見いだす
- ②対象についての新たな思いや願い、見方・考え方を見いだす など

図3 成果や方向性を見極める学び方

### 2-4 自分の今後につなぐ学び方

「自己の生き方を考えることができるようにする」ことをねらう総合的な学習の時間においては、この「自分の今後につなぐ学び方」を大切にしていきたいと考える。それは、人生は決断の連続であり、その度に、今もつ情報をもとに「自分なりの応え」を導いていかねばならないからである。

また、自分の歩んできた人生の轍を変容したきっかけとともに見つめていくことは、自分を支えている存在（人・物・出来事等）にも気付くとともに、自分の在り方・生き方を見つめるためにも必要だと考えるからである。自分を支えている存在に気付くことができている人間は、目の前に困難が立ちただかかって、一旦、立ち止まったり、諦めかかったりしたとしても、また再び、未来を切り拓いていこうとするエネルギーをもつことができると信じている。

具体的には、図4のような学び方である。

本時や単元の学びの成果を自分の今後の在り方・生き方につなぐ学び方

- ①誰のどのような意見に影響を受けたのか、見つめる
- ②対象についての「自分なりの応え」を導き出す など

図4 自分の今後につなぐ学び方

## 3. 研究の実際

本研究は、筆者が、日本生活科・総合的な学習教育学会第24回全国大会福岡2015において、2015年6月20日に口頭発表したものの一部をまとめたものである。

### 3-1 「推論する」学び方の活用を促すワークシートの工夫

#### 3-1-1 調査画像・情報の背景にある思いや願い、見方・考え方を推論バージョン

##### ○「室積・祭り人」（第4学年）において

この単元のねらいは、子どもが祭りに携わる人々の祭り観に迫るとともに、自分なりの地域の伝統行事へのかかわり方を見いだすことである。

子どもは、何の視点ももたずに調査をしてしまうと、事実や情報を得ただけに満足しがちであり、「なぜ、そこにそれがあるのか」「何のためにその人はその行為をしているのか」等、それらに携わる人々の思いや願い、関わる出来事、それを引き起こした原因等、それらの背景にあるものに思いをはせることは難しい。また、思いをはせていたとしても、事実や情報が羅列されたワークシートからは、調査活動を通して子どもたち一人ひとりが感じた思いや願い、疑問、その子ならではの見方・考え方等は見えにくいいため、

教師にとっては、次時からの授業を子どもに寄り添いながら展開することが難しくなってくる。そこで、本単元では、本格的な追求に入る前に、図5のワークシートを用いて、祭りの背景にいる人々、人々の思いや願い等に注目させていった。提示された画像から「見えること・分かること」を記述させるだけでなく、「推論する」学び方の活用を促し、それらをもとにした「自分の考え」を記述させた。表1は、A児の記述である。

表1 A児の記述

見えること・分かること	自分の考え
「129フランク」と書いてある。	その横には、「128」があったから、ここに「フランクフルト」を売る出店が並ぶのかな。ここで「129」なら、通りの端は、何番の番号なのかな？それが分かると、いくつ出店が出るのか、分かるね。でも、誰が貼ったのかな？
おじさんが、電柱からコードを引っ張っている。	ぼくも見たよ。電気を引く箱には、「普賢寺」と書いてあったよ。色々な立場の人が、祭りの準備をしていそうだな。
普賢祭のポスターがある。	普賢寺に行くまでの道に貼ってあったよ。たくさんの人に来てもらいたいから貼っているのかな？でも、祭りの前に海商通りに来た人しか見ることができないよ。

**未来への架け橋×E** ( )月( )日 4年1組( )番  
名前( )

★普賢祭★下の画像から、どんなことが分かりますか




画像	見えること・分かること	自分の考え
		
		
		

図5 「推論する」学び方の活用を促すワークシート

A児の「誰が貼ったのかな？」「色々な立場の人が、祭りの準備をしていそうだな。」の記述からは、様々な立場の人々が祭りに携わっていることに目を向けたことが分かる。また、「たくさんの人に来てもらいたいのかな？でも、海商通りに来た人しか見ることができないよ。」の記述からは、祭りに携わる人々の祭りに対する思いや願いに目を向けたことが分かる。そして、「ここで『129』なら、通りの端は、何番の番号かな？それが分かると、いくつ出店が出るのか、分かるね。」という記述からは、祭りの規模に目を向けたことが分かる。

子どもにとって初めて活用するワークシートでもあるので、A児のように、背景や祭りの運営等に迫る鋭い視点をもてた子どもばかりではなかった。そこで、A児の推論を伝えたり、皆で推論し合ったりすることで、一人ひとりが人・物・出来事の背景に着目できる視点や方法を蓄積していくことができるようにした。

### 3-1-2 人の思いや願い、見方・考え方を推論バージョン①

#### ○「住みやすいまち」とは？」(第4学年)において

この単元のねらいは、子どもが、多様な立場や状況に置かれた人々や多様な年代の人々が求める「住みやすいまち」の条件や、その条件を挙げた背景にある下松市やまちづくりなどに対する思いや願い、見方・考え方に迫り、下松市の特徴を住みやすさという視点から見つめ直し、「住みやすいまち」に対する自分なりの考えや新たな下松市観をもつことである。

図6のワークシートは、地域の人々に対して「住みやすいまち」だと判断する条件についてアンケート調査や聞き取り調査をした後に、子どもたち一人ひとりが、調査対象や自分の「住みやすいまち」に対する考えを整理するためのものである。ワークシートの左半分と右半分の上部は、調査で得た事実を整理する欄である。この単元では、年代別・性別・職業等による判断材料や判断基準等の違いにも注目させていきたいと



考えたので、「年齢」「性別」「職業」を記述する欄を設けた。そして、右半分の下部は、「推論する」学び方の活用を促し、調査対象の考えを子どもがくみ取っていく欄を設けた。また、「だから、ぼくは・わたしは、( )さんにとって、『住みやすいまち』とは、ズバリ！なまちである」と考える」という欄を設け、「結論付ける」学び方の活用を促し、調査対象の「住みやすいまち」のとらえに対する「自分なりの応え」を記述できるようにした。このように、調査対象の考えを一言で表現して蓄積していくことで、自分や仲間のがかかわった調査対象の「住みやすいまち」に対する考えを比較しやすくしていった。

**未来への架け橋メモ** (5)月(2)日名前( )

★性別(男・女) ★年代(40代) ★職業(会社員)

★(お父)さんの「住みやすいまち」に対する思いや願い、見方・考え方にせまる!

★(お父)さんの「住みやすいまち」を決めるじょうけんは、以下の3つだった。

じょうけん	具体的な視点や理由など
① 安心・安全なまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>色々な種類の病院がある</li> <li>車が少ない</li> <li>はんざいが少ない</li> <li>横断歩道を見ずして人かいる</li> <li>お年寄りやさしいしせつやんがある</li> </ul>
② やさしい気持ちよいまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>ながめのよい場所がある</li> <li>しずかであり休めるかしょよがある</li> <li>ゴミが少ない</li> <li>ぐさりぬることができ、しずかなかんしょよがある</li> </ul>
③ 便利なまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>何でもそう大型店が近い</li> <li>食や物屋さんがたくさんある</li> <li>バスや駅が近い</li> <li>道が広い</li> </ul>

★(お父)さんが選んだじょうけんの中で、1番ゆう先順位の高いものは、以下のじょうけんである。

安心・安全なまち

(お父)さんが、これを1位にする理由は、以下のようなものであった。

<理由>

大人(お父)も安心して生活できるかんしょよが一番重要な事だと思うから。

だから、ぼくは(いろいろな世代)安心してくせるといことが大事というお考えですね。

お父さんの考えにも通じます。

いろいろな世代一ツなかり

(お父)さんは、なぜ、(安心・安全なまち)を1位にしたのだろうか。その理由を、ぼくは・わたしなりに考えてみると、

安心・安全なまちになると、みんながけがもしないし、事故もおきないし、みんながおうついで生活できるから。たては②

それに、いろいろな病院があると、もしものときに、即かるから。たては①おし歯になったときには歯医者があるとなおしてもらえるから。

子供(お母)と見守ってくれるボツコリアの人(子供)だけ飛なくお年寄りも見守ってもらえて、より安心・安全なまちになるところが。

支え合っていくとよいという考えたのですね。

だから、ぼくは・わたしは、(お父)さんにとって、「住みやすいまち」とは、ズバリ!

安心・安全なまち

もしものときにも安心・安全なまちであると思える。

もいものとき、お父さんの考えの大きさが分かるのかな?

図6 情報を整理したり、「推論する」学び方の活用を促したりできるワークシート

### 3-1-3 人の思いや願い、見方・考え方を推論バージョン②

#### ○「形から見える『かたち』」(第4学年)において

この単元のねらいは、子どもが、身の回りの形や空間等を見つめ直すことで、ユニバーサルデザインの考え方を実感し、その実現のために見いだすことである。3-1-2で取り扱った単元の次の単元である。

この単元では多くのワークシートを開発したが、図7の担任が選んだ「人にやさしい形」画像をもとに、担任がそう考えた根拠を「推論する」ワークシートを例に挙げる。筆者は、担任<sup>1)</sup>であった際には、総合的な学習の時間だけでなく、友達や人の考えの背景を「推論する」活動を多く取り入れていた。また、それまでの単元の課題解決においても、「推論する」学び方を活用していた。このワークシートは9月に用いたため、ある程度「推論する」学び方が子どもたちに身に付いていると考えた。しかし、子どもたち一人ひとりが「推論する」学び方を活用できるようにするために、「『～だからではないか』と、推論してみましょう」と投げかける言葉を入れた。そして、「推論①・推論②・推論③」という欄を設け、子どもが、1つの推論だけで自分の考えを決定付けることのないように工夫した。

本時は、敢えて担任である筆者の考えを推論する活動を設定したが、その理由は、小学生の子どもは、担任の考えに影響を受けやすいからである。総合的な学習の時間で取り扱う課題は、現代社会の課題であり、人類の問いでもある。だからこそ、担任も答えなき現代社会を生きる一人の人間であり、子どもたちとともに、人類の問いに向き合っていることを伝えたかったからである。そして、誰かの考えを鵜呑みにするのではなく、自分なりの根拠をもって、課題に向き合ってもらいたいと考えたからである。

未来への架け橋 (9)月(21)日 名前 )

★なぜ、これを「人にやさしい形」だと判断したの？

わたしは、以下の画像の中にあるものを「人にやさしい形」だと考えました。その理由を、推論（ずいろん）してみましょう。

わたしは、以下の画像の中にあるものを「人にやさしい形」だと考えました。その理由を、推論（ずいろん）してみましょう。

推論① もしもかんばしがないと男が女性、女が男性に入るとしたら困るし、警察に捕まるとかではないか

推論② 遠くから来た人、聞かなくても（色・方向）男が女か、女が男か、色・方向からではないか

推論③ もしもここでこのかんばしが見えなく（高）高い所にあると見える（又、右や左から来た人も見えるからではないか）

★全体で語り合った後

□ 藤上先生の「人にやさしい形」に対する考えに対して

わたしを考えを推論してみても、あなたは、この画像を「人にやさしい形」だと考えましたか？自分の考えを以下に表しましょう。

人にやさしい形である	あまり「人にやさしい形」だと思えない	「人にやさしい形」ではない
------------	--------------------	---------------

<上記の立場を選んだ理由>

1 目は、目が見える人はやさしいけど目が見えない人は見えないから。

2 目は、高い所と低い所があるので、低い所と高い所に同じ物を置けば、おぼろしくなるのでは。

□ 今日の追求で、「人にやさしい形」であると判断する決め手は、以下のようなものもあると分かった。

1	まちがいにくい
2	速くからでも分かる
3	どっちの方向からでも分かる。
4	色はだいたいできてわからない
5	小さいでいる時（大人も分かる）

だから、今日の追求をもとにすると、ぼく・わたしは、「人にやさしい形」とは、ズバリ！

状況をおぼろしく把握している

体は自由な人も外人も分かる形

ぼくは遠くから来たとき

であると考える。

図7 「推論する」学び方の活用を促したり、

自分なりの「人にやさしい形」を分析する視点を蓄積したりできるワークシート

(藤上、p. 91、2014)

また、図7のワークシートの右半分には、次時に皆で推論し合った後に、それを「『人にやさしい形』と判断するかどうか」とその理由について記述させた。そして、それから後のワークシートにも同じ欄を設けた。その子どもがその時間に得た「人にやさしい形」であると判断する決め手と、本時の最終的な着地点である「だから、今日の授業をもとにすると、ぼく・わたしは、『人にやさしい形』とは、ズバリ！□である」というように、「人にやさしい形」に対する「自分なりの応え」を記述させ、「キーワード化する」学び方と、「対象についての『自分なりの応え』を導き出す（結論付ける）」学び方の活用を促した。常に同じことを問い続けることで、協同的な学びを通して、子どもが得たり、強固にさせていったりした見方・考え方、考えを教師が把握したり、子ども自身の自覚を促した。同じことを問い続けるワークシートを用いることで、教師も子ども自身も、学びの過程や自分が変容したきっかけ等を把握できるようにした。

### 3-2 「優先順位を検討する」「重要度を検討する」学び方の活用を促すワークシートの工夫

#### 3-2-1 「これがぼく・わたしの一番！シート」

#### ○「住みやすいまち」とは？」（第4学年）において

この単元のねらいは、3-1-2に記載したので省略する。

地域の人々へのアンケート調査や聞き取り調査を行う前に、子どもたちに、自分たちなりの「住みやすいまち」をとらえる視点をもってほしいと考えた。自分たちなりの考えをもたずに調査活動を開始すると、自分の考えと調査対象の考えの共通点や相違点を意識することもなく、調査対象の考えを鵜呑みにしてしまう子どもが増えるからである。自分たちなりの考えをもっておくことで、調査対象の考えの根拠を深く探ろうとする意志も生まれ、かかわり合いが深化・活性化していくと考えた。

子どもたちは皆で語り合っ、て、「住みやすいまち」であると判断する条件を7つに絞り込んだ。「安心・安全なまち」「いやされる・気持ちのよいまち」「便利なまち」「楽しいまち」「他の市の人が来なくなる



名所・名物があるまち」「働く場所が多いまち」「みんながつながるまち」である。まだ追求の初期段階なので、それぞれの言葉の抽象度は揃っていないが、子どもたち自身が導き出すことを優先した。そして、皆の考えをもとにして、自分だったらどの条件を重要視するのか、考えさせた。まずは、7つから3つに絞り込ませた後、図8のワークシートのように、「選んだ3つのじょうけんの中で、1ばんゆう先順位が高いものは、どれ？」と投げかけ、「優先順位を検討する」学び方の活用を促した。また、「だから、ぼくにとって・わたしにとって『住みやすいまち』とは、ズバリ！                    まちだと考える」という欄を設け、「対象についての『自分なりの応え』を導き出す」学び方の活用を促した。そうすることで、「優先順位を検討する」学び方を活用しながら、「住みやすいまち」に対する自分なりのとらえを見つめる活動を通して、自分は本時の終盤には、「住みやすいまち」に対してどのような考えに至ったのか、自覚できるようにした。

★選んだ3つのじょうけんの中で、1番ゆう先順位が高いものは、どれ？

【条件】便利な町

<なぜ、それが1位だと考えるのか>

便利な町だと車いすの人体が不自由な人でも色々と工夫で便利になっているので助かるから。後24時間サービスなので夜間の人も助かるし大型店ばも、下松市にまであるの？何でも買える。他にも安い店や新しく倉庫物置さんがあるしたくさんあると下松市のみんなが助かるので便利だつたらしいと考えた。たから、学校や働く場所が近くにあってもらくくても助かる。最後は道が広くて車が流れがスムーズに車にならないので、車道だと一ばん車やさん急の車も助かる。 社会の学習とつなげ

だから、ぼくにとって・わたしにとって、「住みやすいまち」とは、ズバリ！

色々な店がある。学校などが近い。車道がなくて車にならない まち

だと考えるのだ。

みんなが助かる がキーワードですね。

車いすの人体が不自由な人  
夜間の人

いろいろなじりまよう もキーワードですね。

夜間のとき ものとき 車に乗っているとき

さんがイメージしているみんなって、他には？

図8 「優先順位を検討する（重要度について検討する）」学び方と

「対象についての『自分なりの応え』を導き出す」学び方の活用を促すワークシート（B児）

単元の前半の本格的な追求に入る前の子どもは、具体になっていない見方・考え方や自分の見方・考え方、思いや願い等の傾向を自覚できてないことが多い。その部分が、今後追求していくべき課題につながる場合が多い。そのため筆者は、図8のB児の記述から、「『みんな』と記述しているが、「車椅子の人」「夜勤の人」「体が不自由な人」と限定的に表現しているため、B児に自分が意識している人々の自覚を促したい。「人々が置かれた状況に目が向いているので、その自覚を促すとともに、同一人物であっても、置かれた状況が変わると判断基準が変わってくることに目を向けさせたい」と考え、図8のようにコメントを記述した。

### 3-3 「分類する」「優先順位を検討する」「キーワード化する」学び方の活用を促すワークシートの工夫

#### 3-3-1 「カリスマレベルはどれだシート」

##### ○「おもてなし」（第6学年）において

この単元のねらいは、子どもが、多様な立場の人々の「おもてなし」の行為や表現された場所や空間などの背景にある思いや願い、見方・考え方に迫ることで、ホスピタリティの考え方を実感し、日常生活においてその考え方を生かす方途を見いだすことである。

図9は、単元の中盤以降に用い、これまで調査した「おもてなし」を生み出す要素をキーワード化したものを、「分類する」「優先順位を検討する」学び方の活用を促して、整理し直すためのワークシートである。皆が導き出したキーワードを、「おもてなし」界のカリスマになるために必要だと考えた行動や見方・

考え方などを、もてなす側ともてなされる側心の動きを考えさせながら、一人ひとりに「カリスマ」「中級」「基本」のレベルに分類させた。そして、「キーワード化する」学び方の活用を促し、この3つのレベルを、自分の言葉で表現し直させた。

ここでいう「カリスマ」とは一流ということで、子どもたちと共通理解している。(藤上, p.122, 2016)

未来への架け橋メモ みんなが導き出したキーワードの優先順位を検討しよう 6年2組 ( ) 番 名前 ( )

キーワード	もてなす側の心の動き	お客の心の動き	自分なりに名前を付けると
<p>プロコンカマ カーマ</p> <p>理由 時間を忘れる=すごく夢中にさせるということだからプロにしかできないと思いたから。</p> <p>理由 技術をみがくのは簡単だけど、技術をみがき続けるのはとてもむずかしいから。</p>	<p>絶対に成功するぞ！ お客様もきと喜んでくれる。</p> <p><b>自信满满!</b></p>	<p>とっても楽しかった！ もう、プロにしかできないうらいた!</p>	プロレベル
<p>スリルのある楽しさの表現 サブライス 元氣いっぱい どんな時でも笑顔 いつもはちがう自分が出てくる よい響き 体験コーナーの設置</p> <p>簡単なアクシデントへの対応 お客様の安心を促すこと 安全な体験をすること お客様に合わせた対応 簡単な説明をイメージし、伝えること どんな状況にも対応できるように準備 いつでもいっしょに体験できるメディア</p> <p>もてなす側の自由の表現 オリジナリティ 安全性を高める技術 ターゲット(年齢)の特定 目の要りに合わせた見出しの工夫 お客様が自分の目的を達成しやすいように アピール仕方の工夫 お客様とお客とのつながり おもてなしの心が伝わる工夫</p> <p>お客様に喜んでもらえるようにしたい お客様に喜んでもらえるようにしたい お客様に喜んでもらえるようにしたい お客様に喜んでもらえるようにしたい</p> <p>理由 ⑧ 笑顔の出むかえは基本だけど、それをいかに楽しませるかはすごいことだから。</p>	<p>お客様が喜んでくれるといいなあ。</p> <p>お客様が喜んでくれるが少し、心配だなあ。</p> <p><b>少し心配!?</b></p>	<p>楽しかった！ 思い出がたかさん残ったよ!</p>	いできるでさななレベル
<p>心癒い笑顔 笑顔の演出 音での演出 礼儀正しさ 整理された環境づくり 分かりやすい案内による説明 分かりやすい説明 積極的な声掛け 安心感を与える対応の仕方 くつろぎの空間づくり いつもは違う景色にさせること ワクワク感を与えること</p> <p>その人だけのサービス 衛生管理 マニュアル お客様に 対応できる行動力 アクシデントへの対応力 危険取り 簡単な説明や状況に合わせた対応の仕方 居心地のよさの表現 働きやすさ 働く場所の全てを把握していること</p> <p>清潔な環境づくり 音ともてなす側のつながり お客様 お客様が笑顔で楽しめるようにしたい 安全性を確保する点検タイム 初めて訪れる人への心づかい おすすもいつでも紹介できる下観べ 働く仲間の協力体制 安心感を与える 事故ゼロ記録更新</p> <p>もてなす側の備え 自分の役割を 果たすこと</p> <p>整理された環境づくり 分かりやすい表示 花やキャラクター人形などによる演出 ユニバーサルデザインのあること</p> <p>理由 ⑤ イメージすることは大切だし、お客様が先にするのはすごいことだから。</p> <p>理由 ④ お客様の心を读み取ることはとてもむずかしいから。</p>	<p>お客様は喜んでくれるだろうか。</p> <p>お客様が喜んでくれるかとても心配だなあ。</p> <p><b>とても心配!?</b></p>	<p>楽しかった。 だれでもできるようなことをやっていけたらうれしかった。</p>	当たり前レベル

図9 「優先順位を検討する」「分類する」学び方の活用を促したり、自分なりの言葉で3つの分類に名前を付けたりできるワークシート(C児)

図9のようにワークシートに整理させることで、その児童なりの判断基準や根拠等を顕在化させていった。

図9のC児のワークシートの「自分なりに名前を付けると」の欄を見ると、C児は、3つのレベルを「プロレベル」「できる・できないレベル」「当たり前レベル」と表現している。図10のD児のワークシートの「自分なりに名前を付けると」の欄を見ると、D児は、「ホームランレベル」「ヒットレベル」「バントレベル」と表現している。野球のスポーツ少年団に入って活躍しているC児らしい記述である。自分の言葉で表現させる活動は、一人ひとりの興味・関心やこだわりの傾向、これまでの経験等が浮かび上がってきてくることを改めて実感した。

この活動の後には、一人ひとりが「カリスマ」レベルに選んだキーワードの中から、さらに重要性が高いものを班で5つ選択させた。そうすることで、一人ひとりの見方・考え方のズレや共通点をもとに、「カリスマ」レベルの「おもてなし」を生み出すために必要な行動や見方・考え方について、語り合うことができるようにした。

もてなす側の心の動き	お客の心の動き	自分なりに名前を付けると
<p>はぁ~つかれた ここまで やれやれたぜ!</p> <p>うわぁ~やった かいかあお つれたけど...</p> <p>うわぁ~やった かいかあお つれたけど...</p> <p>もっさり 上のレベルは 5</p> <p>あぁ~楽し おねなし!</p> <p>この活動 キャストは ゲストは</p>	<p>うわぁ~なんでも パフォーマンス これは、うわぁ!</p> <p>また 行こう</p> <p>いつもは、5が う気分~</p> <p>あぁ~楽し た。なんでも 楽し</p> <p>これは、 またまた 行ってみたい</p> <p>こんなおで し。当たり前</p> <p>できな さ、当り 下級レ の店</p>	<p>ホームラン</p> <p>ヒット</p> <p>バント</p>

図10 D児のワークシートの一部



3-4 「対比する」「共通点を導き出す」学び方の活用を促すワークシートの工夫

3-4-1 「自分の目の付けどころはしっかり分析シート」

○「住みやすいまち」とは？」（第4学年）において

この単元のねらいは、3-1-2に記載したので省略する。

調査結果を分析・整理させる際に、教師は「気付いたことは何だろう」「疑問に感じたことは何だろう」等のように、抽象度の高い発問を投げかけがちである。このような発問であつたら、調査結果の何に着目し、どのように分析・整理していったらよいか、一人ひとりの子どもが把握することは難しい。また、その課題にふさわしい分析・整理へとつながっていかなかったり、教師が子どもに追求させたいと考える方向に向かわなかったりする等して、活動が這い回ってしまいがちである。だから、子どもたちにとって、今後生きる学び方が蓄積されづらくなってしまう。

図11は、調査結果を年代別・性別で整理したものである。

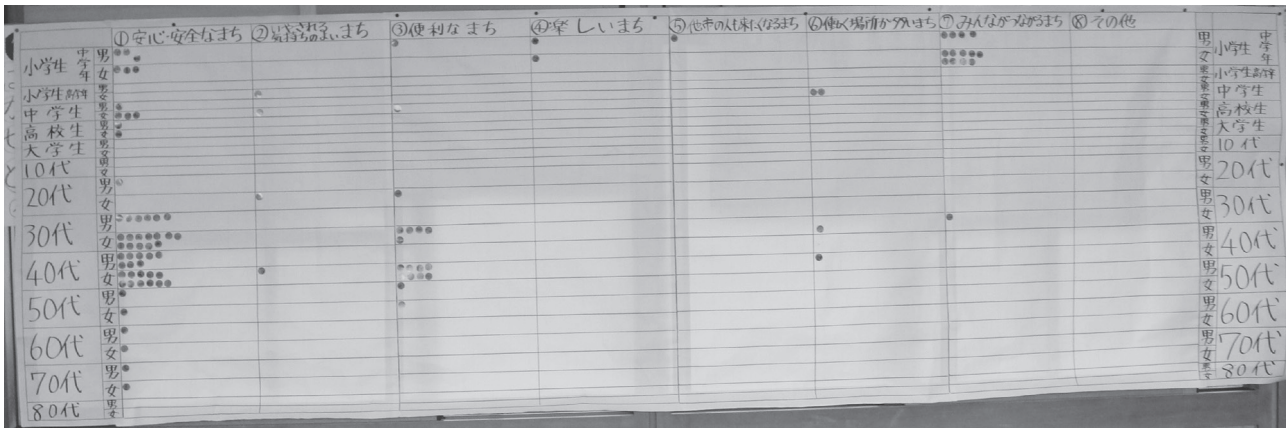


図11 学級全員の調査結果を年代別・性別にまとめ、一目で傾向が分かるようにした表

**未来への架け橋メモ** (6)月(3)日 名前( )

調査結果を見て、気付いたことや疑問などを書こう

目を付けたところ	結果	結果から気付いたことや疑問など
(40)代に着目すると	男女ともに安心・安全なまちを選んだ。いる。でも女性の方が多かった。(男...8人 女...10人)	(大人)は、男性も女性も安心・安全なまちが多かった。みんなの安心・安全の子供たちの安心・安全なまちをのぞいてみるのだらうなと思つた。安心・安全が子どもたちの心に響いている大人には気がかりなのね。
(30)代(男・女)に着目すると	60代女性に比べると安心・安全なまちでも安心・安全なまちが2番目は便利	30代女性に比べると安心・安全なまちでは、1番多かったけど、40代と同じで安心・安全なまちが2番目は便利
(男・女)に着目すると	女性に目を付けた。30代女性も40代女性も便利	ちょっと、女性には家事の負担を減らすことが出来る方がいいと思つた。だから、仕事(家事)の負担が大きいスレズなのがいいのだ。

**子どもと大人を対比すると**

目を付けたところ	結果	結果から気付いたことや疑問など
子どもと大人を対比すると	大人(30代~40代)は安心・安全なまちだった。でも小学生はみんなが住むまち、だ。	(大人)は子供が住むまちが多かった。安心・安全を考えると、みんなが住むまち、だ。
みんなに共通することに着目すると	みんな安心・安全なまちを選んだ。女性も安心・安全なまちを選んだ。	みんなが安心・安全なまちを選んだ。みんなが安心・安全なまちを選んだ。

**まとめ**

上記のことから考えて、「住みやすいまち」のじょうけんは、安心・安全なまち、便利、なまち

この2つはみんなが住むまちから生まれると考えたのだ。

図12 着眼点を明らかにさせて調査結果を分析できるワークシート

図12は、図11の調査結果を分析する際に用いた。まず、「対比する」学び方の活用を促し、「( )代に着目すると」「( )代(男・女)に着目すると」「(男・女)に着目すると」「子どもと大人を対比すると」というように、年齢別・性別による違いに着目して分析する欄と、「( )さんと( )さんを対比すると」というように、個による違いに着目して分析する欄を設けた。年代や調査対象を子どもが選択できるように穴埋めにする事で、子どもたち一人ひとりの分析の視点の傾向を顕在化できるとともに、子どもたち自身が、自分の分析の視点を意識しながら、自分の考えを整理できるようにしていった。

そして、「共通点を導き出す」学び方の活用を促し、「みんなに共通することに着目すると」というように、調査対象となった人々に共通する「住みやすいまち」に対するとらえに着目させていく欄を設けた。みんなに共通することを導き出すことで、地域に暮らす多様な立場や状況に置かれた人々皆が、「住みやすい」と感じるまちを創造していくことの大切さに目を向けてほしいと考えたからである。しかし、図11を見ても分かるように、子どもたちの調査対象とした年代には偏りが見られた。この偏りに気付いてほしいがために、一目で調査結果をとらえられる表を作成したのであるが、それだけでなく、このワークシートの分析を通して、「調査対象の年代が偏り過ぎているな。これで、結論を言い切つてよいのかな？」という疑問をもち始める子どもが複数出てきた。このことは、このような課題を追求していく際に、年代や性別等に偏りが見られると、課題解決のためにふさわしい情報を得ることができていないということにも気付くきっかけとなつていった。このようなことに気付き、それらを皆で共有するためにも、「結果」「結果から気付いたことや質問など」の欄を設け、「事実をどのように分析していったのか」「分析結果から何を感じ、考えていったのか」等が浮かび上がってくるようにしたことは効果があった。

今後、子どもたちが、同様な課題解決に向かう際に、分析の視点を意識化・焦点化させながら、深く対象の本質に迫ろうとし、不足の情報があれば自ら求めていくことができるようになっていくことを願った。

## おわりに

小学校教員であった際に、筆者は、子どもの内面にあるものが見える化したり、子どもが深く思考・判断せざるを得なくなつていったりするようなワークシートを開発し続けてきた。子どもがワークシートを用いて、様々な学び方を経験していくことで、最終的には、ワークシートという教師が提示した枠組みの中で、自分の学びやその過程を見つめるのではなく、自分自身の学びを自分自身の求めや課題解決に応じて自分自身で見つめることができるようになっていくことを目指していきたくて考えていた。今後も、効果的な手立てを模索したい。

## 注

- 1) 筆者は、図6のワークシート開発時には、山口県下松市立公集小学校に教諭として勤務していた。

## 引用・参考文献

都留覚，藤上真弓：「プロ教師に学ぶ総合的な学習の時間授業の基礎技術」，東洋館出版社，p. 17，pp. 20-25，2012.

藤上真弓：「総合的な学習の時間の授業研究における見える化についての研究～子どもの内面や教師の意図をとらえるために～」，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第38号，p. 91，2014.

藤上真弓：「総合的な学習の時間の学びの中で思考力・判断力・表現力の向上を図るワークシートの工夫」，日本生活科・総合的学習教育学会第24回全国大会福岡2015研究紀要，p. 220，2015.

藤上真弓：「国語科・道徳・特別活動とのつながりを意識した総合的な学習の時間のカリキュラム開発についての研究」，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第41号，p. 122，2016.